

大好き！絵本

初瀬 恵美



『クリスマスってなあに』
作:ディック・ブルーナ
訳:ふなざき やすこ
出版社:講談社

今年も一年で一番園が明るく華やかになるクリスマスシーズンがやってきました。創立以来毎年少しずつ増えているクリスマスオブジェ。外がどんよりとした天気、木枯らしが吹いていても、部屋の華やかさが、暖かさにつながるような気がします。そして、今年4年ぶりに全ご家庭のおうちの方と一緒に、クリスマスをお祝いし、幼児クラスの子どもたちが、イエス様のお誕生を劇にした「聖劇～ようこそイエス様～」を演じました。そのクリスマス会に参加された方の中に母となり、聖劇を見に来た卒園児の子がいました。その子は「20年も前の事ですが、歌全部歌えるくらい覚え

ていて、とて懐かしい気持ちになりました。みんなとても頑張っていてほっこり楽しいひと時でした」と感想をくれました。園の歴史と共に、受け継がれている「聖劇」。素敵な感想をいただけて嬉しかったです。

さて、今回は聖劇に近く、よりシンプルなお話がかかれています『しかけえほん クリスマスってなあに』をご紹介します。

クリスマスという日本では、サンタ・プレゼント・おいしいごはん・イルミネーションなど、楽しいこと、素敵な事がいっぱい思い浮かびますよね。実は前置きでも述べたようにクリスマスはイエス様がお生まれになった日なのです。そのことを天使から最初に知らされたのは、野宿をして羊の番をしていた貧しい羊飼いでした。「いま、ベツレヘムの ちいさな うまごやで、ひとりの あかんぼうが うまれました。その あかんぼうは、すべての ひとの うえに しあわせを はこんでくれるでしょう」という天使の声をきき、羊飼いたちは、羊たちをつれ、馬小屋をめざして出発しました。星がまばたきながら羊飼いたちを導きます。馬小屋につくと、かいばおけの中に赤ちゃんが眠っていました。羊飼いたちは、天使から聞いたことをマリアとヨセフに伝えました。同じころ、3人の学者たちも星に導かれて馬小屋へやってきて贈り物をしました。羊飼いたちは、大勢の人達に、神様の子イエスの誕生を伝えました。この日から、毎年私たちは、イエス様の誕生をお祝いしています、というお話です。

ディック・ブルーナさんと言えばミッフィーちゃんでおなじみなので、ご存知の方も多いと思います。イラストはシンプルですがあたたかみがあり、登場する人や動物天使たちは、みんな正面を向いています。この絵本に限らず、ブルーナーさんの絵本の主人公はいつも正面を向いているそうです。それは「子ども達の正直なまっすぐな目にこたえようと思ったから」と聞いたことがあります。シンプルな絵は「創造の余白を残しておくことが大切」と考えていたからだそうです。絵本と出会う子どもたちの事をとっても大切に考えて、創作活動をされていたからこそ、その絵にふれると、あたたかな気持ちになるのかもしれませんが、ぜひ、この機会にご覧になられてみてはいかがでしょうか。

～絵本の絵を添えて 園の聖劇にでてくる歌のご紹介～



♪ わたしは ちいさい ひつじかい
そのよる てんに ひびいてた
てんしの うたを ききました



わたしは ちいさい ひつじかい
そのよる そらに かがやいた
ふしぎな ほしを みました



♪ とおい ひがしのくにの さんいんのはかせたち
ほしに みちびかれて さばくを こえる
すくいぬし いえすさまに みつつの たからもの
ささげて おがみます うまやのなかで